

2026年の北海道 政治、クマ、ファイ

はどのような——!? ターズetc

出席者

A 全国紙記者
B 地方紙デスク
C 民放報道部記者
D フリージャーナ
リスト

公明離脱に振り回されて

A みなさん、お久しぶりです。今回も私が進行役を務めさせていただきます。1年前、これだけクマの恐怖が身近に迫るとは誰も予想できなかったけど、その話はあとです。そして、まずは政治の話題から始めようか。維新が主張する議員定数削減が実施されれば、道内選挙区は1→2減

の見込みという。B 26年に解散はないと思うが、自公連立の解消もあって、今後の対応が難しいだろうね。先日、小樽で中村裕之の支持者と話したとき、公明の佐藤英道に4区を禅譲した矢先に公明が離れて白紙になり、再び中村が立つことになった状況について、「こういうゴタ

ゴタは勘弁してほしい。関係者に『選挙区は佐藤、比例は中村をよろしく』と挨拶したばかりなのに。中村本人が盤石なら心配しないが、立憲の大築紅葉に負けているからね。高市人氣はそろそろ高止まりだろうから、(選挙を)やるなら自民の支持率が落ちないうちにやってもらいたい」と嘆いていたよ。D 公明を巡るすったもんだといえば3区で

大阪・関西万博の開催、コメ価格の高騰、初の女性首相誕生、日中関係の悪化など、いろいろな出来事があった2025年。だが、道民の関心が最も高かったのは、前代未聞のクマ騒動といえるだろう。腹を空かせたアーバンベアが、このままおとなしく冬眠してくれるのか予断を許さない状況であり、いぜん不安は消えない。そして、地震の恐怖も改めて感じるようになった。2026年の北海道はどうなるのか——。4人のベテラン記者に、ざくばらんに語っていただいた。

(構成・本誌編集部) ※文中一部敬称略

も。公明梓の処遇に苦慮していた自民道連が、高木に比例での出馬を打診。激怒した高木がこれを一蹴し、元の鞘に収まった経緯がある。当時、話を持ちかけたのが、道連会長だった中村というのは皮肉な話だ。

てくれれば、まさに漁夫の利だ。

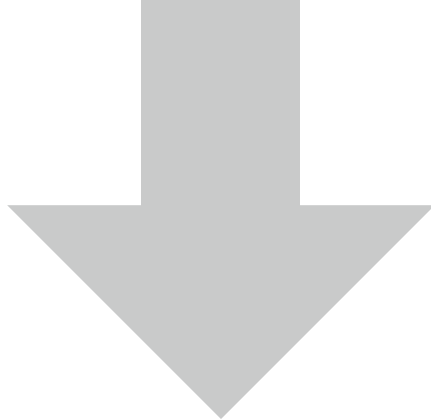
実家が豊平区で、高木と荒井親子のライバル関係を見続けてきたけど、最近では若い荒井のほうが勢いがあるからね。選挙区を奪われてたまるかというプライドはわかるが、あれだけ大見得を切った以上、次は負けるわけにはいかないだろう。C 荒井に関しては、一部に市長選、知事選にとの声もあるようだから、高木としては、荒井が国政から転身し

その10区で自民は、元衆議の渡辺孝一を擁立する方針だが、過去4回の当選はいずれも比例上位で「実戦」を経験していないのが不安材料といえる。C 12月には自身が代表を務める政党支部で、パー券販売を巡る問題が発覚。法律で定める1団体からの上限を超える200万円を受け取っていた。事務上の

ミスであるとし、収支報告書を訂正すると説明したが、ケチがついたことは間違いない。A あと、これはクオリティのベテラン記者さんから聞いた話だけど、7月の参院選で、自民の岩本剛人は深夜2時半過ぎ、やっと正確に。選対事務所での伊東良孝と鈴木貴子の様子が対照的だったらしい。午前1時過ぎに来た鈴木は元気がいっぱい、主役の岩本も顔負けの張り切りよう。報道陣を押しつけて支援者と握手していたのだとか。その時点で、



▲渡辺孝一氏



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)